

## 2017年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本耳鼻咽喉科学会

正式名称

スペシャリストとしての耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技教育プログラム

医学教育事業の概要

学術講演会ハンズオンセミナー（対象：医学生・臨床研修医：耳科手術、鼻科手術、頭頸部手術、咽喉頭手術コース）、専門医講習会ハンズオンセミナー（対象：専門医：鼻科・耳科手術コース）、夏期講習会手術セミナー（対象：専攻医）の開催

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、その他（医学生）

対象となる医療関係者の想定人数：各年の対象者は医学生60人、臨床研修医60人、専攻医50人、専門医80人 計250人で、3年間で750人

医学教育事業の必要性

耳鼻咽喉科領域は解剖が複雑で、重要な臓器が隣接しているため重篤な合併症を起こす危険性が高く、手術に際しては多種多様な器機を用いることから、手術手技の習熟には多くの経験を必要とする。そのため現在は遺体を用いた研修が行われているが、遺体の入手制限などにより、ごく限られた施設でしか実施されていない。さらに、2004年度から施行された新医師臨床研修制度により耳鼻咽喉科を希望する医師数が激減し、耳鼻咽喉科専門医とくに高度な手術手技を備えた医師が不足することが懸念されている。したがって、将来を担う耳鼻咽喉科医の増加と育成、さらに手術手技に習熟するための効果的かつ効率的なプログラムの構築が必要とされている。

医学教育事業の目的

耳鼻咽喉科に興味を持つ医学生および臨床研修医、耳鼻咽喉科専門医を目指す専攻医、そして若手の耳鼻咽喉科専門医を対象として、手術セミナーならびに手術用精密立体モデルを用いたハンズオンセミナーを実施し、それぞれの参加者の興味と習熟度に応じた研修プログラムを提供する。これによって、一人でも多くの医学生や臨床研修医に耳鼻咽喉科学に対する興味を持ってもらうとともに、優れた知識と技術を有する耳鼻咽喉科専門医を育成し、国民へ安心かつ高度な耳鼻咽喉科医療を提供できる体制の構築をめざす。

医学教育事業の計画・方法等

年3回、日本耳鼻咽喉科学会が主催する学術講演会、夏期講習会、専門医講習会の開催時に本事業を実施し、学術講演会では医学生と臨床研修医、夏期講習会は専攻医、専門医講習会では専攻医と専門医を対象とする。学術講演会と専門医講習会では、鼻副鼻腔と側頭骨の手術用立体模型を用いて、内視鏡や手術用顕微鏡、ナビゲーションなどの手術支援器機を使用した手術術式について、参加者のレベルに合わせてハンズオンセミナーを行う。そのため、参加者を初級者、中級者、上級者の3つのコースに分け、学術集会では初級者向けの、専門医講習会では中級者と上級者向けの実技指導を行う。また、夏期講習会では初級者と中級者を対象とするセミナーを開催し、鼻科手術の初級コースおよび中級コース、耳科手術の初級コースおよび中級コース、そして頭頸部腫瘍手術コースの5コースを設け、手術の適応となる疾患の解説、手術適応と術式に関する講演、そして手術ビデオを題材とした討論会を実施する。これらの講習会は複数回の参加を可とするが、同一コースの複数回参加は不可とし、初回到初級者あるいは中級者コースを受講した者は次年度にはよりランクの高いコースを選択させる。そして、その後は各サブスペシャルティ領域の手術指導医を目指して修練ができるよう、日本鼻科学会および日本耳科学会、そして日本頭頸部外科学会などが主催する手術指導プログラムと連携を図る。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

日本耳鼻咽喉科学会ホームページに公開するとともに、日本耳鼻咽喉科学会会報にも掲載する。